

## 米国・中国知的財産権訴訟判例解説（第43回）

## 米国における印刷物(printed matter)法理

## ～デジタル分野における印刷物法理の適用範囲～

IOENGINE, LLC,

*Appellant*

v

INGENICO INC.,

*Appellee*

河野特許事務所 所長・弁理士 河野 英仁

## 1. 概要

米国では判例において特定の「印刷物printed matter」は、米国特許法に基づく特許対象の範囲外であると判示されている。例えば、医療製品の使用に関する投与量の説明を記載したFDAラベルは印刷物に該当し、新規性の判断時に重みを与えられないが、紙媒体が存在しないデジタル分野で印刷物の法理がどのように適用されるのかが問題となる。

本事件ではクレーム中の暗号化通信(encrypted communications)及びプログラムコード(program code)の文言が印刷物に該当するか否かが争点となった。

CAFCは、通信している内容自体をクレームしているものではないため、印刷物に該当すると判断した審判部の決定を取り消す判決を下した。

## 2. 背景

## (1) 特許の内容

IOENGINEはトンネリングクライアントアクセスポイントのための装置、方法、およびシステムと称する米国特許第9,059,969号(969特許)を所有している。969特許の明細書には、「安全性が高く、ポータブルで電力効率の高いストレージおよびデータ処理デバイス」であるトンネリングクライアントアクセスポイント(TCAP)が開示されている。